

# 特集 知っていますか

## 農福連携

農福連携とは、障がいのある方が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会へ参加していくための取り組みです。農福連携を支援することで、障がいのある方の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、労働力不足や高齢化が進む農業分野において、新たな担い手の確保にも繋がります。

今回は、農福連携の取り組みを2つ紹介します。

■農業に関する問／農業企画課  
障がい者施設に関する問／障がい福祉課  
☎52513740  
☎52513748

### できるを広げて

### 生まれた価値

障がい者施設が農家さんの農作業を請け負う取り組みがあります。障がい者施設と農家さんのマッチングは、県授産事業振興会が行っています。農家さんから依頼のあった作業内容を確認し、障がい者施設とのマッチングを行います。

笹谷にある障がい者施設「ワークス・エス・エス」は、農福連携に取り組む施設の1つです。飯坂町中野にある齋藤康之さんの齋藤果樹園で、モモやリンゴの摘果・摘果・葉摘

「農福連携を始めて、苦労したことはありません。特に果樹の栽培は、作業を細かく分けやすいので農福連携に向いていると思います」と話す齋藤さんの果樹園では、利用者のおかげで作業の手間が減り、施設スタッフの働きにより作業指導も負担になっていないといいます。また、齋藤さんは障がい者の方々と共に働く事についても、次のように考えています。

「当初は、簡単な剪定枝集めからスタートしましたが、利用者にもっと出来ることあるかと思い始め、少しずつお願いする作業を増やしていききました。大切なのは、できそうな事にはチャレンジしてみ、彼らの『できる』を広げていくことではないでしょうか。中長期的な視点で見ると、利用者それぞれの得意な作業を発見できます。障がいのある方でも、障がいのない方と同じように作業ができる。農業を通して、私は健常者と障がい者という区別をなくしたいと考えています」。

農福連携は利用者にとっても、農家さんにとっても、それぞれの可能性が広がる取り組みです。

みなどの作業を平成30年から請け負っています。

「最初は剪定した枝を集める作業からのスタートでした。その後、摘果やシート張り、収穫後の梱包など少しずつできることが増え、現在では年間を通して農作業に携わられています」と話すのはワークス・エス・エスの施設利用スタッフです。今でこそ施設利用者（以下、利用者）の手つきも慣れていますが、利用者への作業指示が曖昧だと戸惑うことがあるため、細かく的確な作業指示が必要です。そこで、まずは施設スタッフが農家さんに作業工程を確認し、実際に利用者が作業できるかを見極めます。作業が可能となれば、

### 利用者たちの自立を目指す

笹谷にある障がい者施設「大生信夫の里」では、敷地内のハウスでトマトを栽培しています。施設を利用してするのは主に知的障がいや精神障がいのある方です。「約5年前から地元や県外の農家さんの協力でトマト栽培を始めました。農業は天候や作物の病気に大きく影響を受ける大変さがあります。加えて、障がい者施設ということもあり、利用者の支援を優先してしまうとトマト栽培にまで手が回らない時もありました」と話すのは理事長の根本光雄さん。障がい者施設では利用者が民間企業からの下請けで内職作業を行うことが多いですが、得られる収益では利用者の自立に繋がる給料を払うことができないそうです。「少しでも給料を上げて利用者の自立に繋げたい」との思いから農福連携でトマト栽培を始めました。

大生信夫の里では収穫や選別作業、袋詰めなど、利用者一人ひとりの障がいに合わせて作業を分担しています。「全員で農業に携わる」ことを大切にしているそうです。「自分たちで汗を流して育てたトマトを収穫するときは、とても嬉しそうです」と根本さんは話します。

最近では地元の農家の方からも依頼があり農作業を行っています。「まだ



▶齋藤果樹園の齋藤康之さん

工程をより細分化して施設スタッフから利用者へと伝えられます。常に農家さんと利用者との間に施設スタッフが入ることで、円滑に作業の指示ができています。

「農作業は、利用者の安全面や体調管理に注意が必要ですが、単に労働賃金を得るだけではなく、利用者が人と触れ合える大切な機会です。農業を通じて、楽しく働く事ができています」。農福連携が利用者の生きがいに繋がっていると施設スタッフは感じています。農家側として農福連携に取り組む齋藤さんは、知的障がいがあるご家族がいます。その中で障がい者が新しい形で「働く」ことを模索していました。そ



▶思いを語る理事長の根本光雄さん



▶利用者一人ひとりの障がいに合わせて収穫や選別作業などを行います

まだ依頼される作業は少ないですが、ステップアップして、できる作業を増やしたいです」と意欲を語ります。利用者も普段と違う環境での農作業に生き生きとしているそうです。



▶利用者は厳選されたプレミアムブランドの「水蜜桃」の作業も任されています



▶モモの選別作業を行う施設利用者



▶トマトは道の駅ふくしまやスーパーいちいなどで販売しています

### 共生社会の実現

農家の方々と障がいのある方々が一緒に農作業を行うには農家の方々の理解が必要不可欠です。そういった理解の積み重ねが農福連携という枠をも超えて共生社会の実現につながっていきます。

### 農福連携に取り組みませんか？

労働力不足や高齢化で悩む農家さん、農福連携に取り組みたい障がい者施設を随時募集中です。ご不明な点などあれば、お気軽にお問い合わせください。

■問／県授産事業振興会

☎56311228